

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8577
 住 所 川崎市川崎区宮本町1
 氏 名 川崎市上下水道局
 上下水道事業管理者 大澤 太郎 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎市上下水道局		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎市川崎区宮本町1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	36	水道業
主たる事業 の内容	水道水、工業用水の供給並びに汚水の収集、処理及び雨水の排除		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	32,609	k l
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数	105	台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	30,212	t -CO ₂
連絡先	担当部署	担 当 部 署 名	
		所 在 地	
		電話番号	
		F A X 番号	
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

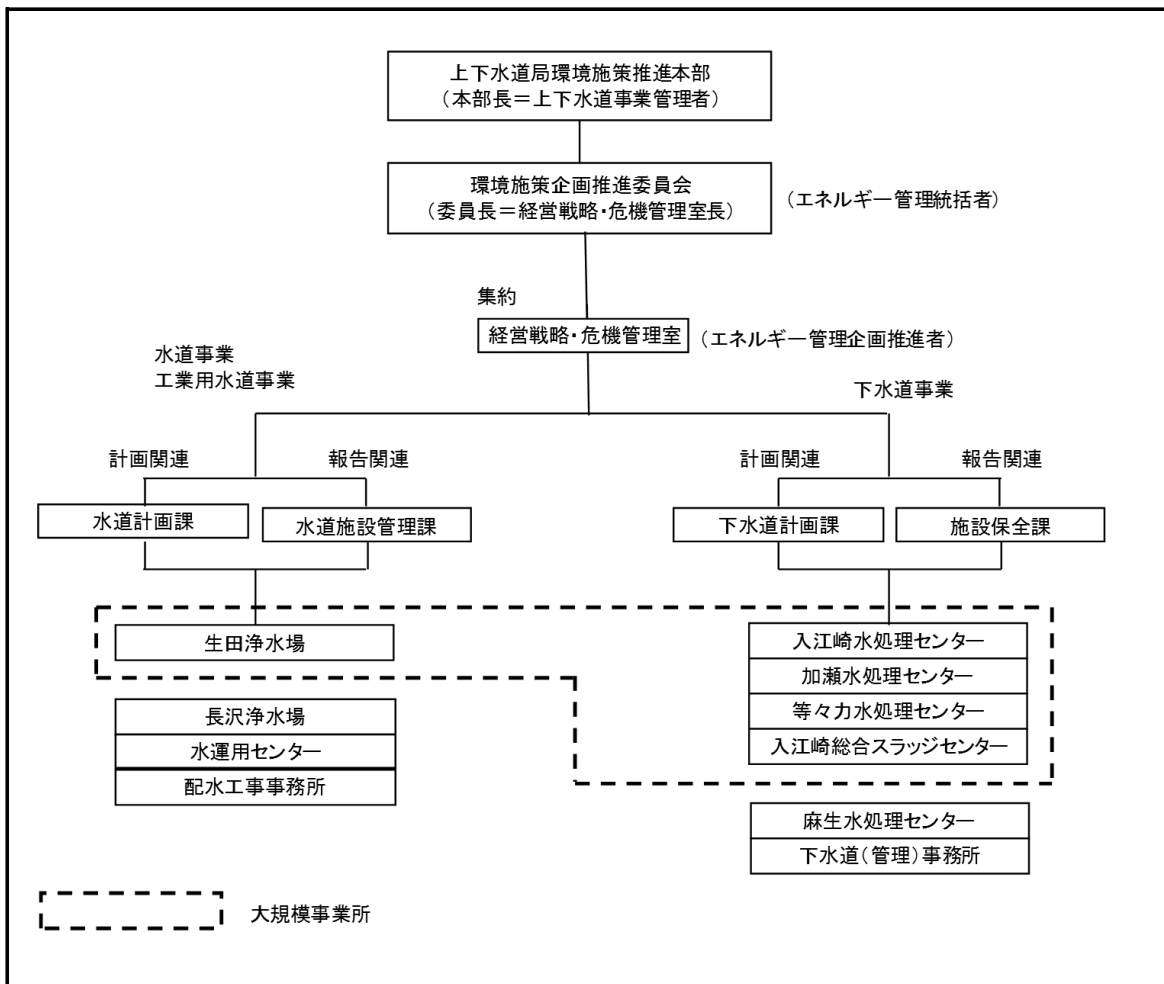
(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

- 1 高効率型機器の導入
- 2 事務所等の室内温度管理
- 3 LED照明施設の導入
- 4 主要設備等の保全管理

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

各年度の取組状況・結果について、点検・確認を行い、必要に応じてスケジュールの見直しを行うなど、取組内容を適宜修正しながら取組を推進する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2021 年度	
目標	年度	2024 年度	
基準	排出量	(実) 92,796 (調) t-CO ₂	(実) 120 (調) t-CO ₂
目標	排出量	(実) 79,528 (調) t-CO ₂	(実) 117 (調) t-CO ₂
削減量		(実) 13,268 t-CO ₂	(実) 3 t-CO ₂
内訳	対策実施による削減量	(実) t-CO ₂	(実) t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実) 13,268 t-CO ₂	(実) 3 t-CO ₂
削減率		(実) 14.3 %	(実) 2.5 %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量			
原単位の単位			
基準年度の値			
目標年度の値			
削減率		%	%

ウ 目標設定に関する説明

水道事業及び工業用水道事業については、今後、給水人口の増加に伴い、温室効果ガスの排出量は基準排出量より増加する見込み。
 下水道事業については、更新時にトッランナー変圧器、高効率な散気装置、LED照明設備等を導入することでCO2排出量の削減を目指し、全体として削減を目指す。
 また、全体として、創エネルギーの取組等を検討しており、使用電力の一部をRE100電力にすることにより、目標排出量が削減する見込み。
 車両のCO2排出量については、ガソリン車からハイブリッド車に代替えることにより、削減を目指す。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	<水道・工業用水道> ○太陽光及び小水力発電設備で発電した電力の有効利用を継続実施 ○事務所等の室内温度管理 ○LED照明設備の導入 <下水道> ○トッランナー変圧器の導入 ○高効率な散気装置の導入 ○高効率な除砂設備の導入 ○低動力な掻寄機の採用 ○LED照明設備の導入
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<水道・工業用水道> ○ポンプ設備について、インバーター制御方式の採用により、使用電力量を削減した。 ○照明や外灯について、LED照明を導入し使用電力量を削減した。 ○太陽光及び小水力発電設備を導入し、発電した電力を有効利用した。 <下水道> 水処理施設、污泥処理施設、ポンプ場（汚水、雨水）において、設備の更新に合わせた省エネルギー機器の導入や、運転管理方法の見直しにより、温室効果ガス排出量の抑制を行っている。 具体的には、これまで次のような取組みなどを実施している。 ○水処理施設の変電設備にトッランナー変圧器を導入。 ○水処理施設の再構築に合わせ、効率的な散気装置へ更新。 ○照明器具をLED照明に更新。 ○焼却施設の高温焼却化、二段焼却化。

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	長沢浄水場、入江崎水処理センター沈砂池管理棟上部に設置済み
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	○	下水汚泥焼却での廃熱を利用した発電設備を入江崎総合スラッジセンターに令和9年度設置予定
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電	規模：約1100kW 導入場所：長沢浄水場	2015年度
小水力発電	規模：約14kW 導入場所：入江崎水処理センター	2011年度
太陽光発電	規模：約90KW 導入場所：入江崎水処理センター	2019年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	△	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	△	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	川崎市上下水道局環境計画に基づく取組の実施
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	62,584	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

32,609	KL
--------	----

ウ 事業所の数

172

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量	
生田浄水場	川崎市多摩区生田1-1-1	4,557	t-CO ₂
入江崎水処理センター	川崎区塩浜3-17-1	10,695	t-CO ₂
加瀬水処理センター	幸区南加瀬4-40-22	6,046	t-CO ₂
等々力水処理センター	中原区宮内3-22-1	12,447	t-CO ₂
入江崎総合スラッジセンター	川崎区塩浜3-24-12	11,578	t-CO ₃

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量	
長沢浄水場	川崎市多摩区三田5-1-1	1,953	t-CO ₂
水運用センター	川崎市宮前区土橋3-1-1	1,615	t-CO ₂
潮見台配水所	川崎市宮前区潮見台4-1	1,343	t-CO ₂
平間配水所	川崎市中原区上平間1668	1,124	t-CO ₂
麻生水処理センター	麻生区上麻生6-15-1	2,839	t-CO ₃

8 基準年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（3号該当者等）

(1) 自動車に係る温室効果ガスの排出量等

ア 温室効果ガスの排出量

(実)	120	t-CO ₂
(調)	-	

イ 車両の台数（基準年度末日時点）

105	台
-----	---

(2) 車両の種別

ア 車両の種別

種別	台数
普通貨物自動車	2 台
小型貨物自動車	53 台
大型バス	台
マイクロバス	台
乗用自動車	24 台
特種自動車	26 台

イ 燃料の種別

種別		台数	比率
次世代自動車	電気自動車	台	- %
	プラグインハイブリッド自動車	台	- %
	ハイブリッド自動車	19 台	18.1 %
	燃料電池自動車	台	- %
	天然ガス自動車	台	- %
	その他	台	- %
低燃費車	ガソリン自動車（上記を除く）	35 台	33.3 %
	ディーゼル自動車（上記を除く）	29 台	27.6 %
	LPGガス車	台	- %
	その他（上記を除く）	台	- %
上記以外		22 台	21.0 %

※低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づき定められた燃費基準（トップランナー基準）を早期達成している自動車をいう。

9 事業者における温室効果ガスの種類ごとの削減目標等 (4号該当者等)

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)			削減率
	基準年度	目標年度	削減量	
①非エネルギー起源CO ₂ (②を除く)	0			%
②廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源 CO ₂				%
③CH ₄	4,680	4,732	-52	-1.1 %
④N ₂ O	25,532	30,199	-4,667	-18.3 %
⑤HFC				%
⑥PFC				%
⑦SF ₆				%
⑧NF ₃				%